

第1回AP訪問が7月7日に終了いたしました。市町村教育委員会や各学校のご協力を得て、充実したものとなりました。校長先生をはじめ教職員の皆様には、APの説明・協議、授業参観と大変お世話になりました。「焦点化」と「対話的な学び」が印象に残った訪問でもありました。訪問を通じ、「津事管内の学校の**状況と今後**」という視点で記述させていただきます。

R5年度 第5号
津山教育事務所 8月

子どもたちの
笑顔・元気のために



状況

- 焦点化・重点化**が図られる学校が増えてきている。「知」に関する項目においては、「授業づくり」の視点にたった重点取組をあげている学校がほとんどである。
- 協議への学力担当等の参加がほぼできていた。AP作成にかかわる職員の意識は確実に向上してきており、**学力担当者や研修担当者の主体的な発言や動き**も多く見ることができた。
- 第1回の面談を受けて、すぐに職員間で共有の時間を取り、取組内容をより具体化・焦点化する学校が多くあった。
- 「対話的な学び」**を授業に設定していこうとしている学校が増えている。
- 全員公開授業は定着してきている。多くの学校がAPと関連のある授業を公開した。
- ▲教職員の共有が図られている学校とそうでない学校の**二極化**が進んでいる。
- ▲取り組んでいることを確認・交流し改善していくような**実践交流の場を研修に位置付け**ている学校は少ない。
- ▲対話場面の設定は、ほぼできつつあるが、**深い学びにどうつなげるか**の取組は弱い。
- ▲教師主導の授業が依然として散見される。なぜ、児童生徒の主体的な学び、対話的な学びが必要なのかを再度共有し、**指導観の転換**が必要である。
- ▲教師が正解主義で、挙手した子中心に授業が進められる場面もある。**見取りに基づいた意図的指名**が必要である。



今後



2学期に向けてのキーワードは

(1)「取組の実践交流」

取組の実践交流を、定期的に研修に位置付けましょう。

- ①全員が同じ方向で取り組んでいるかの**確認** ②取組の**修正や改善の必要性** ③取組の交流による**指導力アップ**

取組の効果が表れるかどうかは、定期的な実践交流の場にかかっていると思います。まだの学校は、是非位置付けてください。

(2)「対話的な学びを深い学びに」

対話的な学びはゴールではありません「深める視点」を共有しましょう。

- ①教科の見方・考え方②一般化（つまり）③具体化（たとえば）④既習との関連付け
上記は例です。校内で「深い学び」を具体化してください。

